



大船渡水産振興センター「復興板」

令和元年7月31日発行 第17号

1 漁港関係施設の災害復旧工事 進捗状況

令和元年6月30日現在の管内県営漁港関係施設災害復旧工事の進捗率は、83%となっています。
(令和元年6月30日現在)

	災害査定 (R1再調査決定額)		発注		進捗状況		完成
	件数	本工事費 (千円)	件数	発注額 (千円)	出来高 (千円)	率 (%)	件数
漁 港	242	33,037,441	240	32,552,576	32,480,058	98	229
漁港海岸	11	33,784,333	11	27,203,861	23,190,966	69	3
漁 場	2	498,880	2	498,880	498,880	100	2
合 計	255	67,320,654	253	60,255,317	56,169,904	83	234

・ さっちゃんNEWS part 1

<エゾイシカゲガイの出荷が始まりました>

広田湾漁協で生産しているエゾイシカゲガイの出荷が、貝毒の影響で予定より約3週間遅れ、7月21日から始まりました。単価は、昨年より200円上回り、1kgあたり3,000円となりました。

本漁期の生産見込みは43トンで、水揚げは9月中旬ごろまで行われる予定です。



<ヒラメ種苗初出荷・放流>

大船渡市末崎町門之浜にある（一社）岩手県栽培漁業協会では、7月10日に広田湾漁協に6万7千尾の種苗を初出荷しました。

出荷の際には、種苗は手早くトラックの水槽に移された後、速やかに放流場所に運ばれ、到着次第、樋を使用して放流されました。

これから、8月末までに計110万尾の種苗が県内の漁協へ出荷される予定です。



★★★_スマイル130 (いちさんまる) プロジェクトについて_★★★

「130万人誰もが笑顔に」をスローガンに掲げ、「県民の笑顔のために」、「感謝の笑顔を（県外、世界に）届ける」を活動のコンセプトとし、復興に取り組む職員の気持ちを盛り上げ、復興に向けた県民と一体感のある取組を展開し、岩手のあるべき未来に追いつく復興を推進する取組みです。

2 水産施設等の復旧・魚市場の水揚げ状況

(1) 共同利用施設等の復旧状況

漁協や各漁業者、水産加工業者などが共同で利用する施設の整備を支援しています。
令和2年度に巻揚機1件の整備が予定されています。

(2) 大船渡市魚市場の水揚げ状況（平成31年1月1日から令和元年6月末累計）

令和元年		平成30年		震災前 (H20～H22の平均)		前年比 (H30/H29)		震災前（H20～ H22の平均）との 対比	
数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(ト)	金額(千円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
13,667	1,186,060	13,879	1,608,215	11,436	1,138,580	98	74	120	104

出典：いわて大漁ナビ

平成31年1月から令和元年6月までの大船渡市魚市場の水揚げ量は13,667トンで、昨年と同程度、震災前の約1.2倍でした。主な水揚げ魚種は、イサダ(5,590トン、2億8千万円)、サバ類(4,449トン、3億1千4百万円)、マイワシ(2,218トン、1億1千6百万円)などでした。特に、定置網によるサバ、マイワシの漁獲が好調で、震災前と比べてサバ類は12倍、マイワシは247倍の水揚げ量となっています。また、サンマが例年より約3か月早い6月26日に水揚げがあり、7月19日時点で43トンとなっています。

・ さっちゃんNEWS part2

< 漁協女性部によるさんますり身汁のお振舞い >



「三陸防災復興プロジェクト2019」の一環で、7月19日、20日に大船渡市内でシンポジウムと展示会が開催され、7月20日の1日限定で参集者などへ「さんますり身汁」が振舞われました。

調理を担当したのは、大船渡市漁協の各地区の女性部で、約350食を提供しました。

復興に取り組んでいる地域の姿を様々な形で発信してきた「三陸防災復興プロジェクト2019」は、8月7日に陸前高田市で開催するクロージングセレモニーをもって、閉幕となります。



「さけの子さっちゃん」は、
大船渡水産振興センターの
PRキャラクターです



『復興板』に関するお問い合わせ先
沿岸広域振興局水産部
大船渡水産振興センター〔担当 宮田〕
岩手県大船渡市猪川町字前田6-1合同庁舎4階
TEL:0192-27-9915 FAX:0192-21-1229
E-mail:BG0004@pref.iwate.jp